

# 防災計画には、自治体が主体的に、 有事の時にイメージした取り組みが必要



山本啓介×9月定例議会

平成23年長崎県議会9月定例会 9月16日、西川議員の質問に関連し、災害対策に対して5分間の関連質問を知事に行いました。

## 問 連 質 問

### ○山本議員

山本でございます。西川議員の質問、災害対策について関連いたしましたご質問をしたいと思います。よろしくお願いいたします。

昨日も議員の方々がご質問され、いろんな答弁がございました。やはり皆様方の心配というのは、各地域まだまだ全く払拭されるものではないと思います。各自治体からEPRZ等々、また避難訓練等々、また防災計画の中身についていろんなお話がございます。とはいっても、自治体はその有事をイメージし、またはその避難の時にイメージしてさまざまな取組をしていくことというのは、やはりその現実を受け止めるというか、各自治体それぞれがその時どうするんだということをしっかりと覚悟、決意する上になければ、実際避難とか、そういった取組についての検討がなかなか動かないのかなというふうに感じております。ぜひここは知事のリーダーシップのもとにしっかりと、それぞれの自治体が主体的に、それぞれのその時をイメージした取組をしていただくように促していただくことも必要ではないかなというふうに感じております。

昨日もございましたが、本日の中でもありました防災計画の中で、避難訓練についての話、11月ということでございます。鷹島を主体とした避難訓練の中で、この避難の受け入れ側の参加内容、または松浦市の鷹島以外の各自治体等々の関係自治体の参加の規模についてお伺いしたいと思います。

### ○危機管理監

11月の原子力防災訓練に

ついてのお尋ねですが、まず、受け入れる側ということで、すけれども、まず、今、詰めておる段階でございますが、イメージとしましては福島第一原子力発電所、これを時系列になぞっていいこうと考えております。ですから、一発目にまず3キロ以内の避難、次いで10キロ以内の避難、20キロ以内の避難、それから20キロから30キロの屋内退避ということと考えております。あくまで松浦市の中での避難受け入れという形になります。

ただ、かかわるところ、やはり30キロ圏内の各自治体、平戸市、佐世保市、ここにも参加していただこうというふうに考えております。以上でございます。

### ○山本議員

参加をしていただくという話でございましたが、どういった内容でどのような形で訓練をするのか、その具体的な内容についてご説明をいただきたいと思っております。

### ○危機管理監

具体的にはまだ詰めておる段階ですが、災対本部に入ってもらうのか、情報収集で訓練に入ってもらうのか、これから詰めていきます。

ただ、先ほど議員ご指摘の主体的な活動ということになりますけれども、これにつきましては、まず、4市で30キロ圏内の避難対策をとっております。これにつきましては、策定するためにはやはり関係市、これが主体とならなければならぬというふうに考えております。松浦市は既に訓練をやっておりますので、各自治体、平戸市、佐世保市については、これから避難計画を策定することになりますので、この訓練を通じて、避難の難しさ、

課題、これを認識していただいて効果的な避難対策に取り組んでいただきたいというふうには、県としては願っております。以上です。

### ○山本議員

ありがとうございます。それから、モニタリングポストの設置について、先ほどの質問の中でございました。これから5箇所に新たに新たに行われるということでございます。当然、私の地元の各自治体も含まれること説明をいただいております。設置をされればさまざまな情報が得られるということ、自治体の方も、また、市民、県民の方々も安心の度合いもまた増すのかなというふうには認識しております。設置までの日程、もし具体的なものがございましたらご説明をいただきたい。いつごろ設置ができるというふうな話があれば、ぜひともお聞かせいただきたいと思っております。

### ○環境部長

現在、国の方と協議をいたしておりますが、具体的には設置機材、こういったものの仕様を国が決めてくるというのが1点ございます。これがまだ決まっておりますので、こちらが決まれば、我々が発注することになります。機材が4箇月程度納入にかかるような話を今伺っております。全国的にも多数の発注がございますが、そういったところを踏まえても、年度内には設置が可能だというふうには考えております。以上です。



# すばらしい地元愛に満ちた活動をしている消防団

## 一生懸命な姿勢が地域の防災意識の向上につながる

平成23年長崎県議会9月定例会 9月20日、松本議員の防災行政、地域防災に関連し、県における消防団の意義として5分間の関連質問を知事に行いました。

### 山本啓介 × 9月定例議会

#### 関連質問

##### ○山本県議

松本洋介議員の質問の中の防災行政、地域防災について、関連をしてご質問したいと思います。と思っています。

各自治体にございます消防団の皆さんは、日中のお仕事、生業の傍ら、非常にすばらしい、崇高な消防精神のもと、ご自身の時間等を犠牲にして取組をされておりまして。そういう組織が長崎県下各地域にございます。

今回、東日本大震災、またそれ以外の災害において、常にいち早く対応されるのは、やはり全国でも地域の消防団でございます。

そして、自衛隊や警察または行政と一緒に取り組んでいくのですが、当然、そこに住んでいるわけですから、地域に残って最後まで取り組んでいるのも地域の消防団でございます。

それだけすばらしい地元愛に満ちた活動をしている消防団、日ごろの活動において取り組んでいるのは、防災設備の確認とか、さまざまな防災に向けての動き。その活動によって、地域の防災意識を高めています。

また、2年に一回ある消防大会、その取組においては、技術もさることながら、その一生懸命な姿勢が地域の防災意識の向上につながっていると。

あれだけ頑張っている団員がいるのだから、自分の町からは火災を起こさない、そういういったものの意識がその自治体の方々にも芽生える、そのような効果も当然ございます。

その中において、先ほどの質問の中にもありましたが、3月11日の震災を受けて、もちろん各自治体が行うの

ですけれども、県が長崎県下における消防団の組織の実態把握を改めて行われているのか、そして、そのような被災された地域の実態を見ながら、長崎県下において、あのような事態が起きた場合、どのように消防団組織と関連していくことをイメージされているのか、そのことをまずお尋ねしたいと思えます。

##### ○危機管理監

消防団に関するお尋ねで、東日本大震災の後に、どういうふうな消防団を把握したのかということ、イメージとして、発生した時に、どのように考えているのかというお尋ねですが、これにつきましては、消防団員が年々減少しているということを、私も4月1日に着任してから、どのような対策が必要なのかについては、ずっと検討をしてまいっております。

先ほど松本議員からもありましたように、協力団体に對して何かできることはないので、今まだ現在、検討中でございますが、ただ消防団員自身、企業に勤めている場合は、出勤する時に、なかなか出勤しづらい、遠慮して出ているということも聞いておりますので、その辺については大変だなという思いを持っております。

地域の中でどのように位置づけているかということについては、地域密着性、そして地域を知っているということ、地域の中の防災の要というふうな位置づけしております。

今ありましたように、東日本大震災では、3県で250名の死者、または行方不明になっております。平素、仕事をしながら、い

ざという時には出勤して行くわけですが、命をかけてやっているわけですから、今、議員の指摘がありましたように、この思いをしっかりと受け止めて、県と市町で真剣に消防団の確保に向けて取り組んでいかなければならないというふうに思っております。

##### ○山本県議

ありがとうございます。随時見直されています。また今回も見直されます防災計画の地域への取組の前提に消防団があるというふうに今、お答えいただいたというふうに思っておりますので、ぜひともその位置において、県から市町に対しても、消防団の取組とか、現在の位置づけ、認識をさらに強く進めていただけないようにご推進いただきたいと思います。と思っております。

また、先ほど危機管理監がおっしゃった、地域によっては、会社の中で、なかなか出勤しにくいという話がございますが、私、地元は壱岐市でございます。離島においては、我々が動かなければ誰も動かないという認識のもと、すべて仕事をほうり出してでも飛び出す隊員ばかりでございます。

そのような状況が離島部と都市部と違うということもさらに認識を深めていただいて、その自治体に合った防災計画をつくっていただく時には、消防団の組織の特質、性質、そういったものもしっかりと目をきかせていただけて検討いただきたいと思いますので、よろしく願います。